

平成 18 年度原子力土木委員会 議事録

日時： 平成 19 年 5 月 10 日(木) 14:00-17:00

場所： 主婦会館プラザエフ

出席者：

加藤委員長，水野氏（藍田委員代理）秋山氏（金谷委員代理），酒井委員，坂巻委員，坂本委員，中嶋氏（柴田委員代理），百瀬氏（高辻委員代理），佐伯氏（田中（英）委員代理），佃委員，豊川委員，中本委員，濱田委員，福島委員，梶田氏（溝辺委員代理），山崎委員，当麻幹事長，秋山幹事，阿部幹事，金谷幹事，酒井幹事，松村幹事，松山幹事，水野幹事

議事概要：

1．話題提供

濱田政則委員（土木学会会長）より以下の題目についての話題提供があった。

「自然環境と社会環境の変化による災害の増大 - 土木技術者の役割 - 」

2．各部会の H18 活動報告と H19 活動計画の審議

（1）活断層評価部会

平成 18 年度活動報告として，本年度はフェーズの区切りであることから，これまでの成果を取りまとめた報告がなされた。地震規模に見合わない小規模な活断層については，造構場（テクトニクスセッティング）に着目した調査手法および評価手法の素案が提示された。褶曲地域における地震規模については，中越地震を例に震源断層の評価手法（案）が取りまとめられた。海域調査については，三河湾および三浦半島周辺における調査結果から，陸域と同等の活動性評価が可能であることが示された。

平成 19 年度計画として，新たなフェーズの初年度であること，さらに現在進められている新指針に基づくバックチェックの状況を見極め，今後の課題について，優先順位を含めた検討を早急におこなうことが提案された。

これらに対し，活断層に限らず，CO2 地中貯留や HLW 地層処分にも重要な海陸境界部には地質調査の空白域が多く存在するため，調査手法を含めた検討の必要性についての提案があった。また，伏在断層など M6～7 クラスの地震に対する評価もすべきであるとの意見があった。関連して，能登半島地震については，活褶曲，海陸境界部などの検討課題を多く含むため，各研究機関でおこなわれている調査結果の報告を見定める必要があるとの意見があった。

（2）地盤安定性評価部会

斜面の変形照査に関する検討において，岩盤の破壊後の負剛性，残留強度，残留剛性といった物性を試験で求めるのは非常に難しいと考えられる。今後の計画において，当初予定に従って解

析手法の基本的検討を進めていくということではなく、解析に用いる物性をどのように求め、評価するかといった点も十分考慮しながら検討を進める必要があるのではないかととの質問があり、このたびの技術指針(JEAG)改訂では、地盤の安定性評価を動的検討中心に行っていくようになっていくことを考慮して、今後は地盤の動的物性評価に関する検討を行う計画もあるので、物性評価と解析との整合をどのように取っていくか等を含めて幹事団で相談したいとの回答があった。

また、原子力発電所周辺斜面と定義する目安値にどのような意味があるのか疑問もあり、今後その目安値の合理化に向けて他の事例も収集し、データを蓄積することによりとらわれる必要はないのではないかとこの意見があった。

(3) 構造健全性評価部会

H18 年度活動報告として、高経年化した屋外重要土木構造物の構造健全性評価手法の体系化を図ることを目的とした、構造健全性評価手法の検討結果、定期点検、詳細点検による評価・判定方法の検討結果、劣化予測方法の検討結果ならびに構造健全性評価部会における審議状況が報告された。

H19 年度活動計画として、構造健全性評価手法の検討、日常・定期点検時における評価・判定方法の検討、詳細点検時における評価・判定方法の検討、劣化予測方法の検討に関して審議することが説明された。

これらに対して、定期点検の評価基準においては、健全度指標や裕度を示す指標の設定方法が重要と考えられる、残りの1年間で評価手法を構築するとあるが、時間的な余裕はあまりないため計画的に進めるべきとの意見があった。

(4) 津波評価部会

全体の活動計画を紹介した後に、平成18年度活動報告として、津波ハザード解析手法と津波による海底地形変化の評価手法の検討に内容について、説明が行われた。前者については、津波記録の再整理の方向性、数値計算における沿岸地形の細分化の効果、津波波源の断層モデルの不均一性を考慮したインバージョン解析結果、これらの三項目が紹介された。後者については、津波による地形変化評価を念頭においた数値計算における空間格子間隔について、紹介された。

これらに対して、近年、人類史に記録がない津波が発見されるなどの成果をあげている津波堆積物の調査結果に関して、現段階ではその成果はこのハザード解析には取り込まれていないが、今後の部会の中で、津波堆積物の成果にも触れ、ハザード解析への反映方法を検討していただきたいとのコメントがあり、検討項目の一つにしたいとの回答があった。

3. 内規の改訂

委員会内規の改訂案が幹事会から提案され承認された。

4. 次期委員長候補者の選出

加藤委員長の任期満了に伴う次期委員長候補者の選出が行われ、駒田広也氏(電力中央研究所)が選出された。加藤委員長から、辞任に際しての挨拶があった。

以上